



さんむ医療センター

問 現在のがん治療においては「治す」ことに加え、早期の社会復帰や就労継続が重視され、その実現には抗がん剤の活用と薬剤師の役割が極めて重要です。地域がん診療病院である「さんむ医療センター」では、がん治療において薬剤師はどのような役割を担っているのか伺います。

答 保健福祉部長 抗がん剤投与の量や間隔、スケジュールを厳密にチェックし、投与ミスを防止する役割のほか、抗がん剤を無菌的な環境で混合する「混注」という専門的な作業を行うなど、薬剤師は重要な役割を担っています。

さらに、患者や家族が安心して治療を受けられるように丁寧な説明を行うなどのサポートをしています。

問 当センターの特徴である「緩和ケア」において、薬剤師はどのような役割を担っているのか伺います。

答 保健福祉部長 緩和ケアにおいては、医療用麻薬の適切な使用・管理が重要であるため、患者やご家族に対し、使用方法の説明や副作用への対応、不安や誤解を解消するための説明を行う等、中心的な役割を担っています。

問 当センターにおける薬剤師の確保状況を伺います。

答 保健福祉部長 令和4年4月時点で正職員が8名在職していましたが、退職や採用を経て、令和7年6月現在では6名となっています。夜間や休日の救急対応には不足しており、引き続き募集を継続しています。

問 市独自に奨学金返還支援制度を創設し、薬剤師確保に取り組むべきと考えますが、市長の見解を伺います。

答 市長 薬剤師の果たす役割は非常に大きく、患者の健康や生活の質の向上に直結するため、優秀な人材の確保は重要な課題であると認識しています。

全国でもさまざまな返還支援の取り組みがありますので、他自治体の動向も注視していきます。

このたびの提案により、薬剤師に対する視点がより広がったことに感謝しますとともに、検討を重ねていきたいと考えます。

【その他の質問】▼避難所運営委員会の取り組み▼被災者支援システムの導入▼市内における交流拠点整備構想の策定



農業振興について

問 本市では、本年3月、農業の20年後を見据えた中長期的なビジョンとして山武市農業構想を策定しましたが、本構想に対しての市長の想いを伺います。

答 市長 本構想は、市の基幹産業である農業の持続的な発展を目指すため、20年後の将来を見据え、今後の方向性や考え方を示すものです。

魅力ある農業を未来ある産業として次世代に引き継ぐため、①強い農業、②広がりのある農業、③みんなで支える農業の3つを目標に掲げ、その実現に向け、取り組みを進めていきたいと考えます。

問 令和5年に地域農業の将来に関するアンケート調査を実施した結果、農業経営に対して「小規模・個人経営では収入が少ない」「肥料・薬剤・資材高騰など経費負担増で人件費が出ない」などの意見が挙げられています。

これらの意見に対し、市として対策や方向性等があれば伺います。

答 産業振興部長 アンケート結果にもありました「資材等の高騰」に対し、国からの交付金を活用した支援策を行うため、今定例会の補正予算案として提出させていただきました。地域の農業経営が改善するよう努めています。

問 本市のネギの産出額は、全国2位県下2位であります。本市農産物のブランド化の取組状況を伺います。

答 産業振興部長 ブランド化に関しては、類似農産物と差別化する付加価値をつけることを通じて、市内の魅力的な農産物を、より広く売り出すために有効であり、そのような取り組みを今後も応援していきたいと考えます。

問 農地を集積するため、水田を畑に転換するための補助金交付の支援はありますが、逆に、畑から水田へ転換するための補助金はあるのか伺います。

答 産業振興部長 個々の畑を水田にする際の補助金等の支援について、関東農政局に確認したところ、現在はそのような支援はないとの回答を得ています。

【その他の質問】▼借地を有する公共施設▼ふるさと納税の指定基準見直し等の制度改正▼モンベルフレンドエリア▼小松地先市有地残土問題▼過疎化対策と移住・定住構想